舞伎にまで上演した。一説にはこの作他人の著に潤飾を加へただけだともいふ）他に三十種餘り作つたが、餘り歡迎されなかつた。彼は天性器用で繪も上手、算數も達者武藝も熟達してゐたが放蕩無頼、不節制の爲め產を潰し晩年貧困、文政の初年遂に瘡毒の爲めに歿した。

をにつら　上島鬼貫　二三二一—二三九八、寛文元—元文三、八、二、七十八歳

攝津伊丹の酒屋（近衞の御領の酒造り）其先は和泉三郎忠衡から出てゐる、彼幼より俳を好み八歳の時已に

來い〳〵と云へど螢がにげていく

の句あり。後大阪に出て鰻谷のほとりに家居し鉞を身すぎとして傍俳諧を樂しんだ。その俳系は宗因の弟子松井宗旦を師としたから檀林派と謂へさうだが、俳句を純藝術と觀て唯美的に吟誦した點から觀ると彼は寧ろ芭蕉前派とも謂ふべく、正風と餘程相似たものであると謂ふ。世に伊丹風の俳句と云ふは宗旦に始まり鬼貫に大成したと云ふが、こは檀林風に始まつて正風に成つたもので當初の俳風とは大分趣を異にしてゐる。その句の特徴は「誠」を旨としたこと、脫俗自然の趣あること、老蒼勁拔の詩致に富むこと、氣品高邁にして市井點者のやうな娑婆氣のないことなどである。彼は芭蕉より十七年下で而かもその俳風は芭蕉に先驅してゐる。にも拘らず芭蕉ほど有名にならなかつたのは、もと〳〵稚氣も衒氣もなく、門戸を張るやうな野心もなく、門人とても唯一二（山下其勢・高橋只川など）あるだけであつたからである（俳文七、素堂鬼貫全集）

遠う來る鐘の歩みや春霞
ほとゝぎす馬追船頭お乳の人
行水の捨處なし虫の聲
涼風やあちら向きたる亂れ髪
草麥や雲雀があがるあれ下る

をののたうふう（をののみちかぜ）小野道風

資料、蛙の話は梅園叢書上二二・神社啓蒙七ノ一四社のことは雍州府志三ノ一
ふるひ筆のことは簽採一二
像は集古十種肖像ノ三・菅像辨・好古日錄上、二八・閑田次筆二ノ四八・故實叢書安齋隨筆一二ノ四〇一、二五ノ八二一・柳弇雜筆四ノ一六
傳は今昔物語二四ノ四〇・江談抄二ノ二三・日本紀略一ノ五一・太平記一二ノ一二・續々群書類從九曆二三八・入木抄三五・大日本史二一ノ四・倭論語三ノ一三・鹽尻一ノ二七、一五ノ二九・合類節用集四ノ一〇・下學集上ノ一二・和漢三才圖會七二ノ本二九・梅園叢書上ノ二二・北邊隨筆二ノ二〇・倭字古今通例全書四ノ三・史科大觀扶桑名畫傳二〇ノ三三六
廣文庫第二十册、一〇五一—一〇五三、國華一五六號卷頭一賴壽法橋筆小野道風畫像、同一七九號卷頭一小野舉時筆小野道風朝臣像、三七五號六一小野道風圖）

をののたうふうあをやぎすずり　小野道風青柳硯

寶曆四年（二四一四）十月竹本座上演、作者は竹田出雲・吉田冠子・中邑閏助・近松半二・三好松洛。
「小野良實・同道風・その弟賴風・文屋康秀の息秋津などが樣々の哀別離苦の後に、逆臣橘逸勢や獨鈷の駄六や伴强宗を退治する」
といふ筋。

をののみちかぜ　小野道風

たうふう「小野道風」を見よ。

をののみやだじやうだいじん　小野宮太政大臣

さねより「藤原實賴」を見よ。

をやまだともきよ　小山田與清

よせい「高田與清」を見よ。

をりく　折句

短歌の各句の初の音ばかりを連れて一個の語句をなすやうに工夫された歌をいふ。
「例、「かきつばた」といふ五文字を句のかしらに据ゑて旅の心をよまむとてよめる。

から衣　まつつなれにし　つましあれば
はる〳〵きぬる　たびをしぞ思ふ

（古類文學部一、五四八—五五〇）

をりたくしばのき　折たく柴の記　三卷

新井白石が正德六年（一二三七六）五月下旬に書きあげた和漢混淆文の自叙傳で、題名は、

思ひ出づる折たく柴の夕煙むせぶもうれしわすれがたみに

といふ後鳥羽院御製から思ひついたものらしく、作者幼時よりの生ひ立ちを作り飾りなく暢べたもので、當時の小藩の小臣の貧窮な家庭や、その家庭に吹く春風のやうな和氣や、幼時早くも穎脫の相を示した作者の面影が文面に躍如たる趣がある。文は優美を欲したが爲めに藩翰譜に見るやうな遒勁な筆致に缺けて時に冗

漫の失もあるが、德川期の和漢混淆文としては出色の出來である。西洋ではオーソグラフィー "Authography" 即ち自叙傳は可なり多いが、我國では自己を取材した戀日記のやうなものはとにかく、斯う明瞭に自叙傳を標榜して筆を執つたものは少い。この點からも注目に値する。國書刊行會第一期、新井白石全集第三册に入る。標註したものには新井・內藤二氏の標註、折たく柴の記、新井・鈴木兩氏の校註、折たく柴の記三册（共に正雁金屋）もある。

をんないまがは　女今川　一卷

澤田きち、元祿十三年（一三六〇）の作。「今川帖」に擬して婦女子の訓誡となるべき事どもを繪入假名文で綴つたもの。幕末から明治の初期に至るまでも盛に行はれた。

をんなころしあぶらぢごく　女殺油地獄

近松が享保六年（一三八一）七月竹本座に書下した世話物「大阪天滿町の油屋河內屋德兵衛は先代主人に見込まれて、內娘お澤の亭主、お澤と先代との間の一子與兵衛はこれまでの若旦那でありなさぬ仲の義理もあつて大目に見てゐると與兵衛は性來の我儘物で、家の在金を持出しては新町の松風や小菊にばらまいてゐる。とゞ金貸綿屋小兵衛から一貫目の負債して義父德兵衛の謀判をするゐたので、日限が來て返濟滯れば德兵衛の首にまで繩がかゝる仕儀となり、いつも面倒を見てくれる豐島屋の女房お吉に融通を頼んだところ、お吉は例の與兵衛の手だなと思つて可いかげんにあしらつてゐると、一方はせつぱつまつて舂に腹はかへられず、つひにお吉を殺害して金を盜みそれで一時をしのいだが、お吉の三十五日の法要に何氣なげにやつて來た時天井の鼠があばれて血染の古證文を落したのが手がゝりで與兵衛の罪がわかつた」

といふ筋。義理人情のいきさつ、先夫後夫へのお澤の苦衷、律義親切な德兵衛、世話女房式のお吉、近代的放蕩者の與兵衛、皆よく描かれて居て、たしかに近松の一傑作である。

日本文學辭典　終

昭和三年三月　一日印刷
昭和三年三月　五日初版發行

★★★★★
版權所有
滿鐵圖書館文獻資料館

日本文學辭典
定價金六圓

著作者　三浦圭三
發行所　大阪市西區阿波堀通四丁目　株式會社大阪寶文館
右代表者　柏佐一郎
發行所　東京市牛込區赤城元町三十四番地　株式會社文教書院
右代表者　近藤彌壽太
印刷所　東京市外西巢鴨町堀之內三番地　第一印刷株式會社
印刷者　東京市外西巢鴨町堀之內三番地　小鹽信三

發行所　東京市牛込區赤城元町三十四番地　株式會社文教書院
發行所　大阪市西區阿波堀通四丁目　株式會社大阪寶文館

— 弘前高等學校教授　三浦圭三著 —

綜合日本文學全史

菊判ポイント組
七四二頁
定價五圓六拾錢
內地送料廿四錢

一般の文學教授者、文部省檢定國語科受驗者、斯學研究の學生諸君、並に斯學に趣味を有せらるゝ紳士淑女の絶好參考書

著者三浦教授は驚歎すべき篤學者である、本書は著者十有幾年の努力によつて漸く大成されたものであるが、その解釋力の正當なる、その洞察力の鋭利なる、その批評眼の精緻なる、加ふるにその文章の暢達流麗なるは、一たび之を繙く者をして、自づからその浩瀚を忘れしめ、一氣に之れが通讀を禁じ得ざらしめる底のものである。

東京市牛込區赤城元町三四
株式會社 文教書院
振替口座東京四三五三番

— 弘前高等學校教授　三浦圭三著 —

綜合國文學概說

菊判一〇五〇頁
定價七圓五拾錢
內地送料廿四錢

一般國文教授者
文檢國語科受驗者
斯學研究の學生
紳士淑女の參考書

本書は綜合日本文學全史の姉妹篇であつて、文學全史が各時代を基礎とし、散文韻文等の形式を分類礎として國文學の縱斷面を示したに對し、本書は各事項を基礎とし、音調美、自然美、團體美、戀愛、宗教、滑稽等を分類礎として國文學の縱斷面を示したもので、文學全史緒論の一項國文學の特質を採つて之を敷衍し、彼の著に盡し得ざる所を擧げ、各主要作品を引例し、それに切實なる鑑賞批評を加へたものである。廣汎多樣なる我國文學は、この兩書によつてよく縱橫に組織統合せられ、こゝに我國文學研究の大系は完成されたといつてよい。著者の非凡なる努力と高邁なる識見は、眞に學界の感謝と驚異に値するものである。

東京市牛込區赤城元町三四
株式會社 文教書院
振替口座東京四三五三番

— 弘前高等學校教授　三浦圭三著 —

國文學史提綱

高等學校教科書
受驗者參考書
國文學史研究書

綜合日本文學全史を能ふかぎり簡結平明に、記憶し易き形に提綱したものであつて、極めて短時間に一と通り國文學史に關する知識を受容せんとする人々、及び受驗準備の際、筆記の勞を省かんとする人々の好侶伴である。その内容の程度及び分量は、高等學校などの教科書に最も適してゐる。第五編に於いて明治文學、大正文學の概觀を論述し、且つ卷末に國文學史研究法の一班を附錄としてあるのは、本書の大なる特色である。

菊判一五六頁
定價壹圓五拾錢
内地送料拾貳錢

東京市牛込區赤城元町三四
株式會社 文教書院
振替口座東京四三五三番

— 文學博士　芳賀矢一　編 —

日本趣味十種

目次

一 江戸趣味の話　三田村鳶魚
二 淨瑠璃の話　高野辰之
三 浮世繪の話　藤懸靜也
四 系圖の話　太田亮
五 紋章の話　沼田頼輔
六 古墳の話　山中笑
七 茶の話　高橋龍雄
八 刀劍の話　杉原祥造
九 殿堂建築の話　伊藤忠太
十 古墳の話　鳥居龍藏

本書の内容は上記の十種に別たれ、いづれも造詣深い斯道の權威が、各專門の研究を熱心に講述されたものである。外來趣味の無批判なる輸入や、物質文化の眩惑などで、國民生活がやゝもすれば低級趣味に流れんとするの秋、本書の發行は眞に時宜を得たものである。本書は我が國の文化生活史とも名づくべきもので、興味津々たる間に、我が國民性の淵源するところがしのばれ吾々の趣味性を向上せしむるの効が少くない。

四六判四四〇頁
定價參圓五拾錢
内地送料拾四錢

東京市牛込區赤城元町三四
株式會社 文教書院
振替口座東京四三五三番

374
120

終